北海道新聞　30年11月27日（朝刊・小樽後志）

新小樽駅の周辺 利点や課題指摘

産学官会議の専門部会

2030年度予定の北海道新幹線札幌延伸による地域活性化策を産学官で検討する北海道新幹線後志開業効果活用検討会議（事務局・後志総合振興局）の専門部会が26日、小樽市内で開かれ、新小樽駅周辺に関する意見を交わした。

座長の後藤英之・小樽商科大准教授をはじめ、小樽市や余市町などの自治体、小樽商工会議所や後志観光連盟の担当者ら約10人が出席。天神地区に建設予定の新小樽駅周辺の活性化に向けて現状の利点や課題について考えた。出席者からは「朝里川や定山渓といった温泉地区に行きやすい」「（中心街で交通が混雑しているJR小樽駅と比べ）レンタカー観光の拠点になり得る」といった利点が挙がった一方、「余市方面への高速道路や小樽駅とのアクセスが良くない」「札幌へ素通りされる可能性がある」と課題も指摘された。

部会は本年度中にさらに会合を開き、活性化策についての意見をまとめる。部会の意見は、同検討会議が20年度末に策定する取り組み方針に反映される見通し。

（谷本雄也）

新小樽駅の利点や課題について意見を交わす出席者

北海道新聞　30年11月27日（朝刊・小樽後志）

ボイス

小樽から

ヨサコイ「U―40」出場目指す　砂田（すなだ）　悠太（ゆうた）さん（25）

「価値観を変えるような演舞で、小樽を盛り上げたい」。YOSAKOIソーランチーム「傾徒（かぶと）」で代表を務める。

札幌出身。小樽商科大進学後、小樽で暮らし始めた。YOSAKOIソーランチーム「翔楽舞（しょうがくぶ）」に所属し、振り付けや衣装のデザインを担当。「一つの目標に向かってみんなで頑張るのが、楽しかった」

4年生だった2014年に、ご当地キャラクター「おたる運がっぱ」のテーマソングの振り付けを考案。「思ったことや感じたことを表現にするのが好き」と話す。大学卒業後は「人が温かい小樽で働きたい」と市内で就職。休みの日には漫画を描くなど表現することを続けてきた。

今年2月に「翔楽舞」の後輩である札幌在住の男性から「やり残したことがある」と声をかけられ「自分も楽しいことをつくりたい」と賛同。「なりたい自分になっていい」をテーマにした「傾徒」を結成した。

現在5人が所属する。20年のYOSAKOIソーラン祭りで、40人未満のチームによる「U―40大会」への出場が目標。「面白い演舞を一緒に作り上げましょう」と参加を呼び掛ける。問い合わせはメールkabuto20180223@gmail.comへ。

（前野貴大）

大学新聞　30年11月10日（北海道・東北版）

魁陽亭社との共同研究を開始

日本遺産で小樽を活性化

小樽商科大学

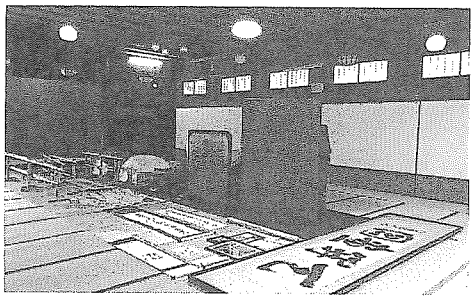
小樽商科大学（北海道小樽市）は、北海道内の経済の再生と振興を担い、グローバル時代の地域マネジメント拠点としての役割を果たすため、教職員と学生が一体となってさまざまな取り組みを行っている。

そして同大はこのほど、旧魁陽亭（かいようてい）の再生計画を推進する株式会社魁陽亭（同市）との共同研究プロジェクトを開始すると発表した。

旧魁陽亭は、明治初期に開業し、開陽亭、海陽亭と名前を変えながら、平成27年まで営業を続けていた北海道を代表する老舗の料亭。今年5月には北前船日本遺産の構成文化財にも認定されている。

同社は建物のリノベーションに加え、周辺に宿泊施設や飲食施設の設置などを含む再生計画を予定している。共同研究によって、旧魁陽亭に残る資料や創業以来の関連人物の調査研究を実施してデータベース化することで、旧魁陽亭の歴史文化を活かした観光資源化・地域活性化を推進するという。

調査結果などに関する進捗は、同大の「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト（本気プロ）」の「日本遺産による小樽の活性化」チームが、ブログやSNS等を通じて発信していく予定だ。



歴史ある建造物を地域の活性化につなげていく